

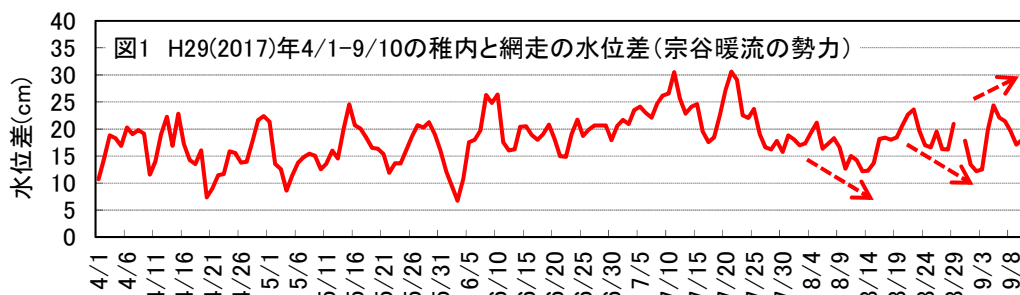
オホーツク海宗谷暖流情報

(H29(2017)年9月上旬)

H29(2017)年9月11日
中央水産試験場資源管理部

(担当: 海洋環境G 嶋田・品田・佐藤)

- 宗谷暖流の勢力は、8/13および9/2にやや弱まりましたが、現在は例年並みとなっています(図1)。9/9の衛星画像をみると(図2)、宗谷暖流が稚内から網走の方向に沿岸を順調に流れていることが分かります。
- 麻痺性貝毒プランクトンAtは、水温が下がり始める秋季には消滅することが知られています。今後は宗谷暖流が弱勢となっても、麻痺性毒性値が上昇する可能性は低いと考えられます。
- 宗谷暖流情報は今回で終了します。



*宗谷暖流は日本海とオホーツク海の水位の落差が大きいほど強く流れることが分かっており、この落差は、稚内と網走の水位差で代表できることが分かっています。

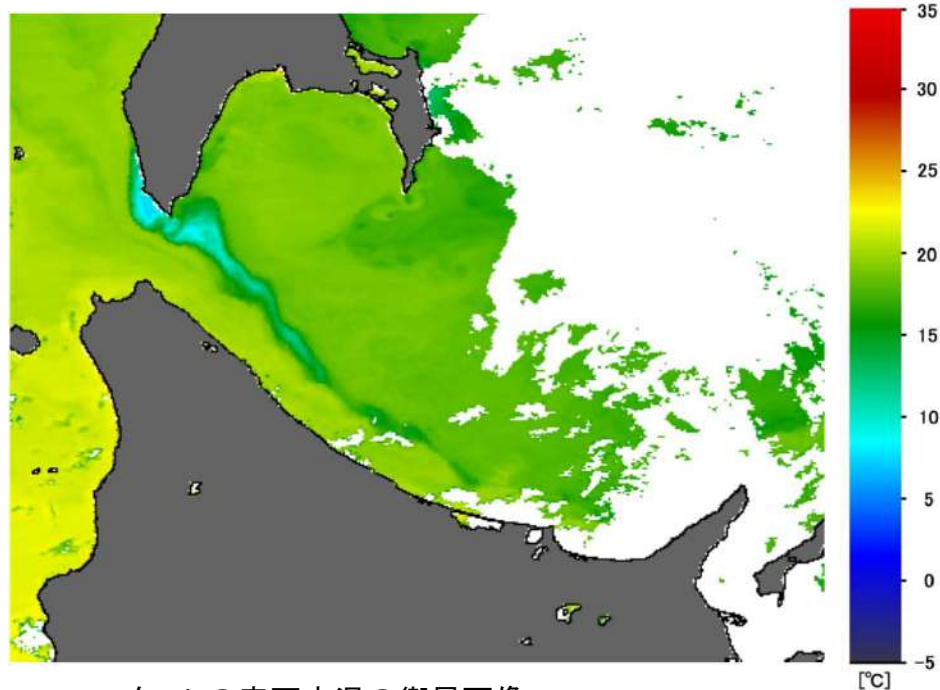


図2 H29(2017)年9/9の表面水温の衛星画像

(MODIS-Aqua, http://www.eorc.jaxa.jp/cgi-bin/adeos/modis_index.cgi より改変引用)

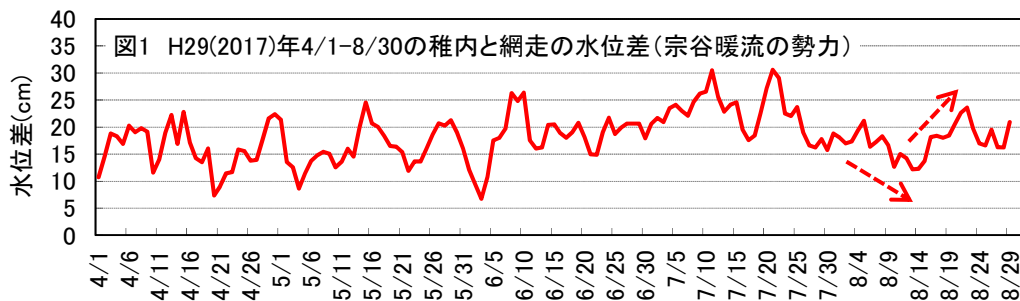
オホーツク海宗谷暖流情報

(H29(2017)年8月下旬)

H29(2017)年8月31日
中央水産試験場資源管理部
(担当: 海洋環境G 嶋田・品田・佐藤)

●宗谷暖流の勢力は、8月中旬にやや弱まりましたが、8月下旬現在は例年並みとなっています(図1)。8/26の衛星画像をみると(図2)、宗谷暖流が稚内から網走の方向に沿岸を順調に流れていることが分かります。

●宗谷暖流はおおむね順調に流れているものの、沖合には麻痺性貝毒プランクトンAtが好む15℃以下の水塊が未だ残っています(図2)。さらに、今週末以降は、本州の東を北上する台風の影響で北寄りの風が吹き、宗谷暖流が弱勢となる可能性があるため、今しばらく麻痺性毒性値の推移にご注意下さい。



*宗谷暖流は日本海とオホーツク海の水位の落差が大きいほど強く流れることが分かっており、この落差は、稚内と網走の水位差で代表できることが分かっています。

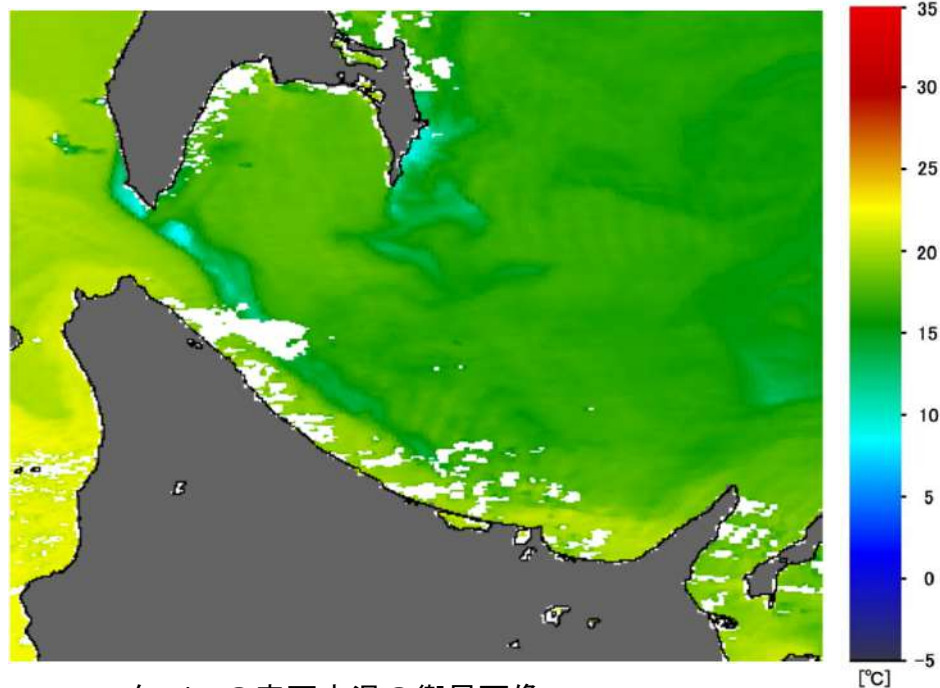


図2 H29(2017)年8/26の表面水温の衛星画像

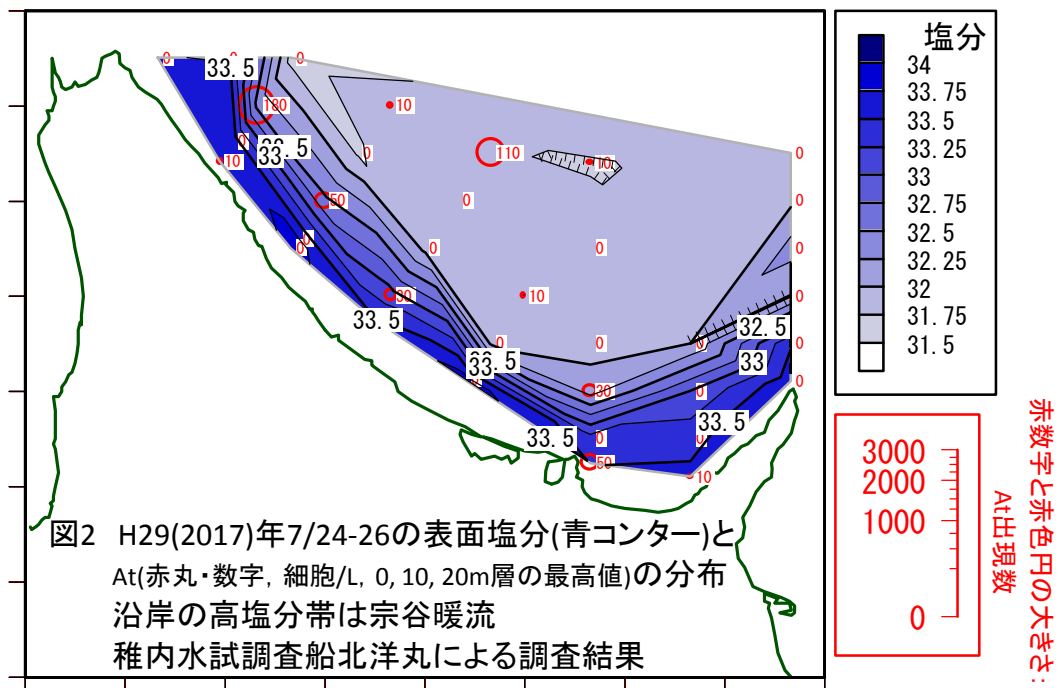
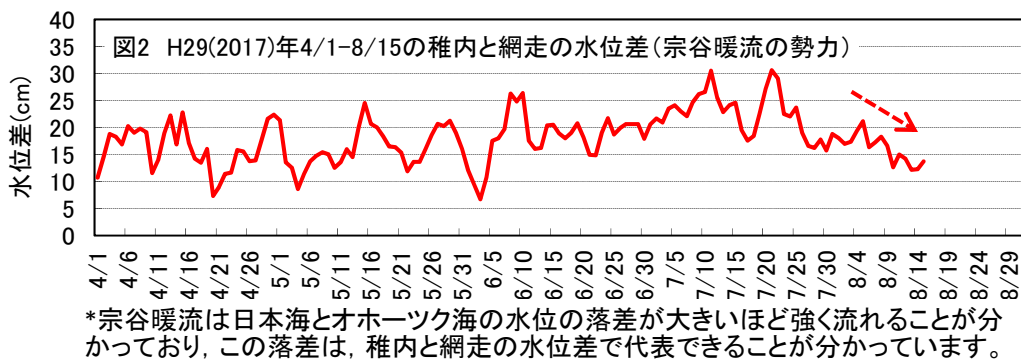
(MODIS-Aqua, http://www.eorc.jaxa.jp/cgi-bin/adeos/modis_index.cgi より改変引用)

オホーツク海宗谷暖流情報

(H29(2017)年8月中旬)

H29(2017)年8月16日
中央水産試験場資源管理部
(担当: 海洋環境G 嶋田・品田・佐藤)

- 8月上旬以降, オホーツク海高気圧が卓越して, 北よりの風が続いているために, 宗谷暖流の勢力は次第に弱まっています(図1)。
- 7月下旬の調査によって, 麻痺性貝毒プランクトンAtは35定点中12定点で最高180細胞/L出現し, 宗谷暖流外側のフロント域付近に主に分布していたことが分かっています(図2)。
- 今後もオホーツク海高気圧の卓越が続いて, 宗谷暖流の勢力がさらに弱まれば, Atが沿岸のホタテガイ漁場に流入して, 毒性値が上昇する可能性があります。今後の気象情報および毒性値の情報にご注意下さい。
- 今後の宗谷暖流の勢力については, 今回同様に適宜お知らせする予定です。

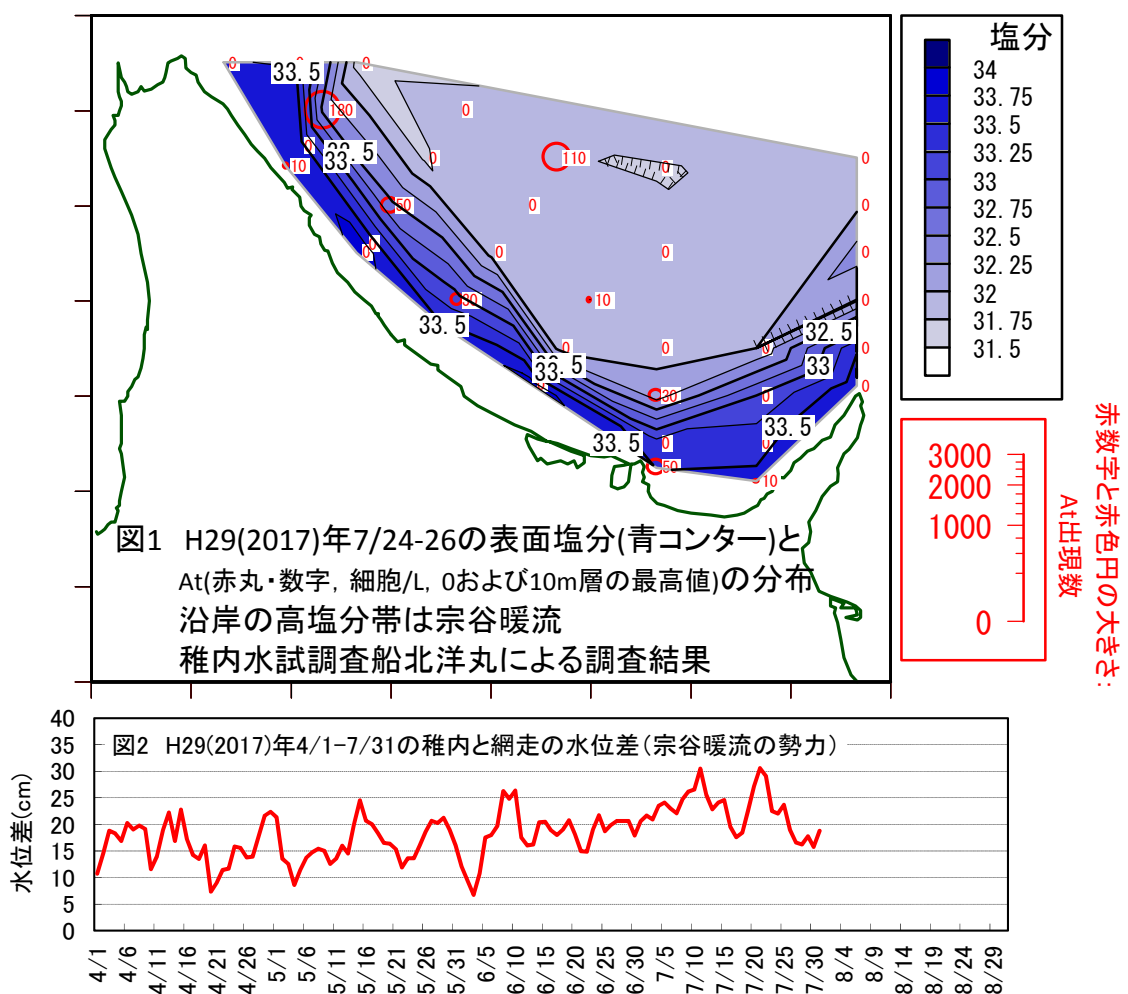


オホーツク海貝毒プランクトン速報

(H29(2017)年7月下旬)

H29(2017)年8月1日
中央水産試験場資源管理部
(担当: 海洋環境G 嶋田・品田・佐藤)

- 7/24-26にオホーツク海で行った麻痺性貝毒プランクトン(アレキサンドリウム・タマレンセ, 略称「At」)の広域分布調査の結果を速報します。
- Atは, 35定点中10定点で最高180細胞/L出現しています(図1)。Atは宗谷暖流外側のフロント域付近に主に分布しています。
- Atが出現していることから, 稚内から網走の方向に沿岸を流れる宗谷暖流の勢力が弱まれば, Atが沿岸のホタテガイ漁場に流入する可能性があります。
- 8月上旬現在, 宗谷暖流の勢力は例年並みです(図2)。
- 広域分布調査は今回で終了しますが, 今後の宗谷暖流の勢力については, 「オホーツク海宗谷暖流情報」として適宜お知らせする予定です。



*宗谷暖流は日本海とオホーツク海の水位の落差が大きいほど強く流れることが分かっており, この落差は, 稚内と網走の水位差で代表できることが分かっています。

オホーツク海貝毒プランクトン速報

(H29(2017)年6月上旬)

H29(2017)年6月5日
中央水産試験場資源管理部

(担当: 海洋環境G 嶋田・品田・佐藤)

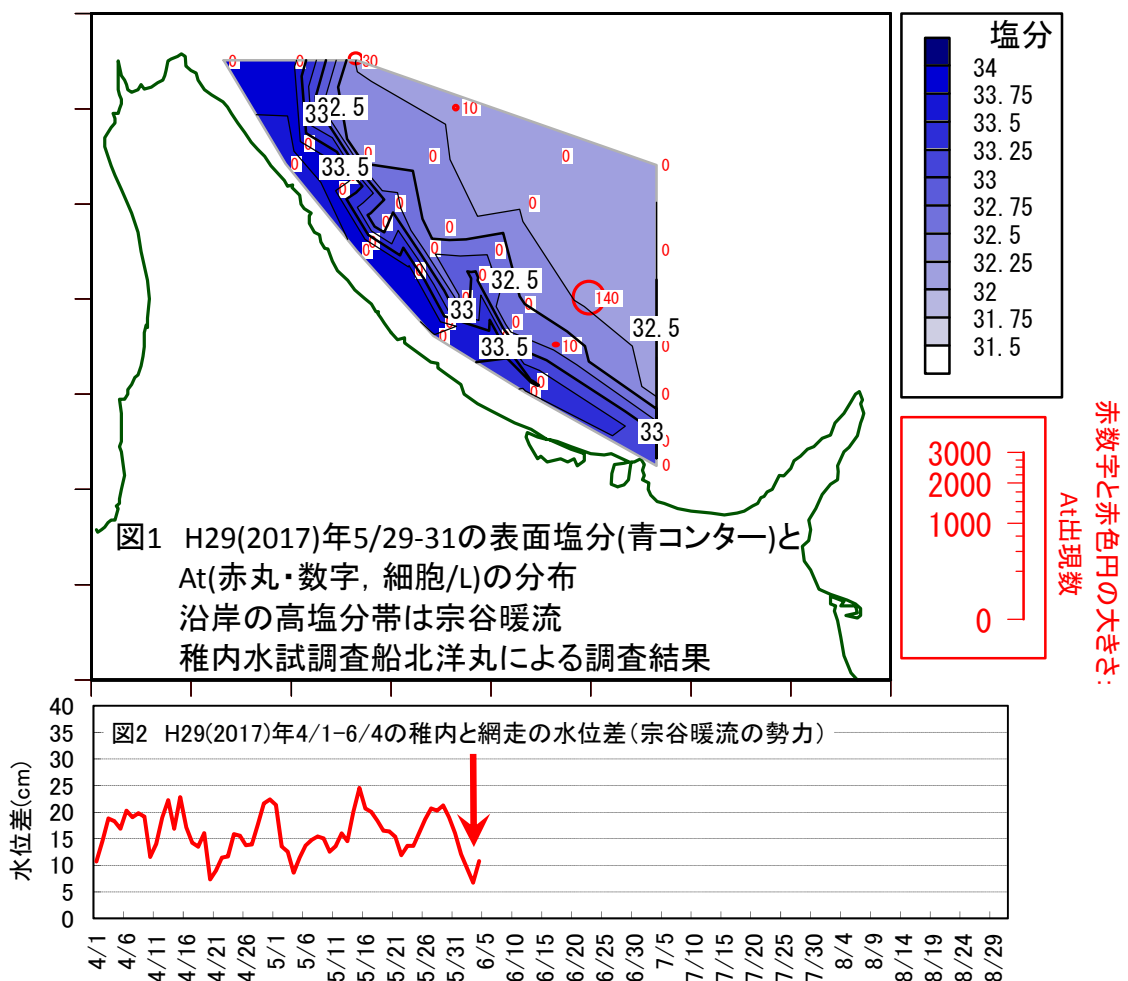
●5/29-31にオホーツク海で行った麻痺性貝毒プランクトン(アレキサンドリウム・タマレンセ, 略称「At」)の広域分布調査の結果を速報します。

●Atは、38定点中4定点で最高140細胞/L出現しています(図1)。Atの出現は今のところ局所的ですが、今後好天が続いて順調に水温が上昇すれば、Atはさらに増殖する可能性があります。

●Atが出現していることから、稚内から網走の方向に沿岸を流れる宗谷暖流の勢力が弱まれば、Atが沿岸のホタテガイ漁場に流入する可能性があります。

●6月上旬現在、宗谷暖流の勢力は弱めです(図2, ↓印)。宗谷暖流の外側にAtが出現していることを考慮すると、数週間以内に麻痺性毒性値が上昇する可能性があります。今後の宗谷暖流の勢力については、「オホーツク海宗谷暖流情報」として適宜お知らせする予定です。

●次回の広域分布調査は7月下旬を予定しています。



*宗谷暖流は日本海とオホーツク海の水位の落差が大きいほど強く流れることが分かっており、この落差は、稚内と網走の水位差で代表できることが分かっています。